

理事長挨拶

法人化6年経過して 長谷川 幹

当学会は2009年設立し、2015年10月一般社団法人化して6年になります。学会の目的は、定款において「脳損傷の人々並びに周囲の人々が同じテーブルにつき、地域において主体的な暮らしの実現、及びどのように改善するかに関し、学術研究、知識、技術の向上を図りその成果を社会に広め、もってかかるすべての人々が双方向に学びあい、共に生きていく社会づくりの発展に寄与すること」としています。

キーワードは「同じテーブルにつき」、「学術研究」、「双方に学び合い」、「社会づくりの発展に寄与」などです。これらを実践するために、年1回の全国大会、機能評価委員会、主体性委員会、ツール委員会、当事者社会参加推進委員会、研修委員会、スポーツ委員会、文化芸術委員会、広報委員会の8委員会が障害のある人とともに日常的に活動しています。

昨年からは新型コロナウイルス感染で主にZoomで会議を行っていますが、2021年度は、2年ぶりに全国大会をオンラインで開催しました。友井大会長のご尽力でこれまで参加されていられなかった失語症の人や市民が多く実行委員会に参画し、大会のシンポジストやポスター発表もしていただきました。9月の当事者社会参加推進委員会企画の「脳障害になった時あると良い知識 Part 3」も新しい脳損傷の人が体験談を発表していただき、ハイブリッドの会場にも多くの脳損傷の人が参加されました。

これまで当学会に関わりがなかった人々の参加が徐々に拡大し、新しい時代に入ったと感じました。今後、さらなる学会発展につながるためにも会員のみならずの力を発揮していただければ幸いです。

新副理事長紹介

山崎 泰広 (株式会社アクセスプランニング チーフコンサルタント)



この度、副理事長を拝命いたしました山崎泰広です。当学会には2016年東京での全国大会から参加しています。私は転落事故による脊髄損傷・下半身麻痺の車いす使用者ですが、その事故で脳挫傷も負いました。脳損傷による後遺症はありませんが、膀胱癌による尿路オストーマの内部障害者でもあります。

30年以上に渡り日本と欧米を繋いで障害者の支援機器と自立支援に関わる仕事をしています。また、自治体や省庁の委員としてバリアフリー化推進の様々な活動もしています。受傷後に再開した水泳では選手としてバルセロナパラリンピックに出場し6位入賞。関東身体障がい者水泳連盟会長、日本パラ水泳連盟常任理事として障害のある方々への水泳の普及に努めています。支援機器とバリアフリーによる自立支援、そしてスポーツの活用を中心に長谷川会長と理事の皆様と協力して脳損傷の方々の

お役に立ちたいと願っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新委員会 文化芸術委員会

2015年に一般社団法人化として、文化芸術・スポーツ委員会が活動をしていましたが、2020年から委員長の宮地氏が仕事場の新たな企画責任者として忙しくなり、文化芸術とスポーツを切り離し、新たに文化芸術委員会が2021年3月28日の理事会で承認されました。

委員は蟹江こうじ（マンガの制作、絵画などを経て就労移行支援事業所を運営）、小林純也（脳損傷後に理学療法士になり、脳卒中フェスティバルを主催）、関啓子（言語聴覚士をしていて脳損傷になる）、名和由理（海外の演劇作品の翻訳家をしていて脳損傷になる）、福澤直美（フルートの演奏をしている作業療法士）、祝部英明（脳損傷後に左手で写真撮影）、山野圭（元大阪の劇団所属で30歳まで役者。その後フリーランスで舞台裏方をしていて脳幹橋出血で仕事不能になる）、長谷川幹の計7名です。

4月から月1回委員会を開き、2022年3月25日、世田谷区下北沢の北沢タウンホールにて「音楽祭（脳損傷の人の音楽、朗読、写真展）」開催に向けて準備中です。開催のタイトルは「reborn（リボーン）」で病気や事故から新生・新しく生きる（生まれ変わる）という意味を込めています。

新理事紹介

宇田 薫

医療法人おもと会 作業療法士



2019年の湘南鎌倉大会時に理事を拝命しました。その約半年後からコロナ禍の影響で、役員や会員の皆様と直接お会いしての活動ができず、この2年間、お役に立てることがなく、自分が学ばせていただいている状況です。

私は作業療法士として訪問リハビリテーションに従事し、地域・在宅で暮らす方と一緒にその人の暮らしや仕事に寄りそってきた経験はあるのですが、本学会に携わせていただく中で、また、コロナ禍での経験は、新たな多くの気づきをいただきました。今後も学ばせていただきながら、多くの方に当学会の活動が届くよう頑張っております。よろしくお願いいたします。

岡本 隆嗣

医療法人社団朋和会西広島リハビリテーション病院 医師



外来などで患者さんから夢や希望のある話を聞くと、突然の病気により障害を負った後、再び目標を人に言えるようになるまで、一体どれほどの時間や苦労が必要だったのだろうと思います。かつて障害受容という言葉でその過程を習いましたが、何か違う気がしていました。

以前、長谷川先生の「主体性」の話聞いた時に、ストーンと腑に落ちました。生活能力や環境を整え「居場所」や「出番」を作る、主体性を引き出しながら目標が「持てる」ようにかかわる、そして目標が「実現できる」ようサポートする。「その気になるまでそばでじっくり待つんだよ」。先生の言葉が時々思い出されます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

小林 央

大田市立病院 作業療法士



この度、脳損傷者ケアリングコミュニティ学会に理事として本会に携わらせていただきます小林央（こばやしひさし）です。私は作業療法士として医療機関に勤務しており、ご縁をいただき第1回の島根県出雲大会より参加しています。支援機器のみならず身の回りの様々な『道具』があって、その人らしい生活を送ることができる。この学会で出会うたくさんの方々の生活する姿に触れ・学び・歩みたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

水口 迅

NPO 法人みんなのポラリス



この度、理事を務めることになりました水口（みなぐち）と申します。私は2012年、46歳の時に脳梗塞に罹患しました。後遺症は軽いものでしたが、勤めていた大学を退職、以後4年間引きこもり生活をしました。

大きな転機は、2017年に地元で開催されたケアコミ学会北海道帯広大会です。この大会で私は副大会長になり、たくさんの方々の仲間と出会いました。

そしてその年に、若年性脳梗塞の当事者を中心に、障害者のピアサポートを目的としたNPO法人みんなのポラリスを設立しました。

私が「生き返る」きっかけとなった日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会に、理事として関わることができるのは大きな喜びです。よろしくお願いいたします。

大西 義浩

NPO 法人日本失語症協議会



岐阜県在住の大西です。失語症の家族会、岐阜県の失語症者会話パートナー等の活動をしています。私は今から15年前の45歳の夏にくも膜下出血により右片麻痺と失語症の後遺症が残りました。働き盛りの出来事でした。それまでコンサルタントの仕事をしていたので失語症は致命的でしたが、とにかく働きたくて 障がい者のハローワーク等に通い、30回近くの面接を受け、5年前に岐阜県庁の障がい者枠で再就労し4年間働きました。

今年の3月で終わりになり現在はボランティアをしつつ就職活動をしています。再就労の難しさという制度の挟間で苦慮致しました。再就労したい思いでいっぱいです。よろしくお願いいたします。

片岡 保憲

NPO 法人日本高次脳機能障害友の会



この度、日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会の理事に就任いたしました片岡保憲と申します。日本高次脳機能障害友の会という高次脳機能障害当事者・家族会の理事長をつとめており、日頃は、高知県で高次脳機能障害がある人の支援に取り組んでおります。脳を損傷した方を取り巻く環境は大きく変わろうとしているように感じておりますが、当事者やその家族が抱えている課題はまだ山積しております。

その課題が一つでも解決できるよう、当学会の活動にも尽力していく所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

政時 幸生

NPO 法人日本脳卒中者友の会



NPO 法人日本脳卒中者友の会の石川敏一氏より代わって、日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会の理事に就任した政時幸生です。前理事の石川敏一氏同様に日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会に寄り添い、また、日本脳卒中者友の会の活動をはじめとして私のできる範囲ですが、しっかりとケアリング・コミュニティ学会を盛り上げて一員になれるように精進し努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

吉井 智晴

公益社団法人日本理学療法士協会 理学療法士



この度、理事を拝命いたしました吉井智晴（よしちはる）と申します。職種は理学療法士です。理学療法士というと病気や、ケガをしてから初めて関わる人だと思っていられる方が多いと思います。もちろんその場合が大半を占めますが、ケガの予防、介護予防、健康増進など、身体（からだ）作りを得意としています。生活の中でより動きやすくする工夫を考えたり、スポーツをしたり、楽しく体を動かすための活動を皆さまと一緒にできたらいいなと、思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

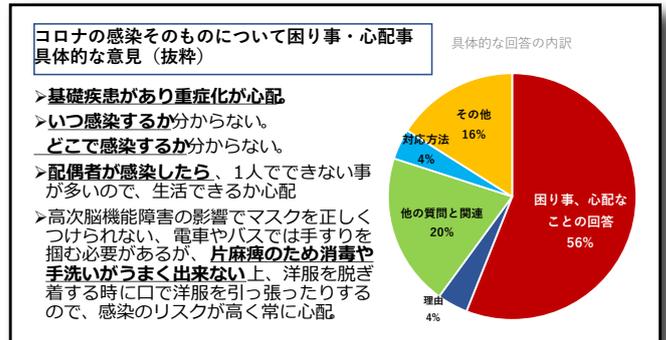
第10回埼玉・東京全国大会報告

第10回埼玉・東京全国大会を終えて

昨年9月に大会開催が正式に決まり、感染拡大の懸念が消えない状況下でこれまでのような集合での大会開催は悩ましく、開催形式について検討し「絶対にクラスターを発生させない」ということから完全ウェブでの開催となりました。

大会長友井規幸氏の声かけにより、埼玉、東京における「若い&ミドル失語症者のつどい」の方、埼玉、東京で活動される障害のある方、支援者を中心に実行委員が招集され、障害のある人10名、支援者7名で大会企画、運営を行うことになりました。途中、大会長は、病氣療養を余儀なくされましたが、実行委員の皆さんは、大会長の思いを引継ぐことを決心し、開催に至り心強く思いました。

実行委員会初めの数回は、実行委員の体験談や活動状況を聞きとることに終始し、本テーマの検討に至るまでに時間がかかりました。徐々に、お互いの伝えたいことが話せるようになり、数か月後にプログラム構成を決める作業に入りましたが、そこに至るまでの話し合いは、大会のイメージを共有するための貴重な時間だったと思います。



大会テーマを「なにが出来るか？脳損傷者 新しい生活様式～with コロナ時代～」と題し、シンポジウム1では、「コロナ禍における脳損傷者の困り事、心配事」について脳損傷者へのアンケートを基に、当事者会での交流、オンラインによる会の参加に対する悩み、家族への感謝、感染による身体面の影響など具体的な困り事、心配事を当事者、家族、支援者の立場から報告しました。

シンポジウム2「私たちの新しい生活への挑戦」では、埼玉、東京、帯広、出雲の方から、コロナ禍においても、新しい企画や目標をもって活動している報告に私たち支援者も元気をいただきました。

さて、本学会における大会では、開催地で活動する障害のある人が実行委員の1/3以上参加し、意見交換しながら企画しています。また、今回はYouTube配信という、ある意味この時代に即した形での開催と言え、これも新しい挑戦でした。



実行委員の皆さんは話し合いを積み重ねたことにより、大会の目的を見事に果たされました。オンライン実行委員会に出席いただきました皆様は大感謝です。

中島 鈴美

実行委員感想

埼玉県若い&ミドル失語症者のつどい 石田 和男

第10回埼玉・東京全国大会は、2021年6月26日、27日の2日間、オンラインのYouTubeで開催されました。大会長の友井さんは、3月に体調不良のため不参加を余儀なくされました。そして、大会長の意思を継いでいこうと思い、代役は立てずに、みんなでカバーしていこうとなりました。

私は、一日目の「コロナ禍における脳損傷者の困り事、心配事」に参加し、「埼玉県若い失語症者のつどい」の運営やオンラインで大変だった事や、オンラインについていけない人たちが多くいる事、それから失語症者のつどいの二次会をパーティーと呼び、無事に終わったこととお話しました。今回はオンラインではありますが、大成功に終わりました。皆さんのおかげです。ありがとうございました。

東京版若い&ミドル失語症者のつどい 黒澤 武史

こんにちは。埼玉・東京大会は私の病氣以降の経緯やつどいの発展、仕事の悩み事や健康面など発表しました。私自身表現力のパワーが足りないため、意思表示が上手く伝えにくい部分もあります。しかし失語症等で悩み苦しみに閉じこもる方々を励まし合いながら共に歩む力をお届け出来ればと思ってお伝えしました。

私も右半身麻痺や失語症になってから波乱万丈はありましたが、振り返れば苦悩し得た事もたくさんあります。時には物事の考え次第で困難にも克服しクリアできます。またお互いひとりぼっちではない、仲間と共感し合いながら進めれば私は活動しています。今後私自身もイベントの発信などのサポートに、また一人でも多くの方の悩み事のお役に立てればと思います。これからもケアコミ学会もお呼びがあればまた参加しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

NPO 法人地域で共に生きるナノ 谷口 眞知子

リモート会議も初めて！ アンケート作成に関わる事も初めて！ コロナ禍の中での不安？心配事？
会議に参加し、ご意見をお聞きしていく中でナノにあてはまる事がない！ない！

どのような形で声をあげて良いのか、始めは非常にとまどいました。

ナノ利用者さんはコロナ禍の中でも不安、怖さを自分事として感じることは難しく、マスク、手洗いに関しても都度声かけが必要な方々が多くをしめす。

はてさて、頭をかかえました。そうだ高次脳機能障害自体一様でなく、それぞれかかえてる問題が違う！私達の声が届けていこう！思いを伝えていく事は困難だけど自分たちとして出来る事、役目をこなす事によって社会に関わり、貢献できる。そうだ、昨年からあたためて来た農業体験を形にしよう。

発表しようナノポテ日記。初めての体験で試行錯誤だらけだったけど、作業も発表も素敵な時間を過ごす事が出来ました。

実行委員の皆様、9ヶ月間どんな時も話を聞いていただき、ご助言いただき、面白がって下さりありがとうございました。

高次脳機能障害者の会 RiTa 齋藤 聡

第10回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会 埼玉・東京全国大会の実行委員をやらしてもらえないかと言われた時には、何が出来るか分からなかった。でも、大会が終わった今、実行委員に誘ってくれた委員長の友井さんに感謝しています。

私は、失語症と右片麻痺で、思った事が書けないし喋りが下手でも、一生懸命頑張ってオンラインでやる事ができました。

私は実行委員に参加したことで、更なる発展をすることができました。

このコロナ禍の時代に、オンラインで全国大会を開催できたことは、次の大会につながると思った。埼玉・東京全国大会を観ていただいた皆さまにも感謝しています。

そして、少しでも実行委員の皆さんの力になれたなら幸いです。次回もまた、お声かけください。全力で頑張ります。

実行委員の皆さま、埼玉・東京全国大会に参加していただいた皆さま、ありがとうございました。

学会ロゴ募集！

任意団体から2015年に法人化し6年が経過しました。現在、学会の目的として掲げている、脳損傷の人々と市民が「同じテーブルにつく」、「双方向に学び合い」、「共に生きるコミュニティの発展」をキーワードとして、各地で開催される年1回の全国大会と8つの委員会（主体性委員会、ツール委員会、機能評価委員会、当事者社会参加推進委員会、研修委員会、スポーツ委員会、文化芸術委員会、広報委員会）が積極的に活動をしています。これまで積み上げた実績を基盤に、その思いをロゴに表現できれば本学会の発展につながると思え、今回、学会ロゴマークを募集することになりました。

皆さま奮ってのご応募をお待ちしています。

募集期間

2021年10月1日(金)～2021年11月30日(火)

応募資格

学会会員または会員の推薦者

応募詳細は学会ホームページ <http://caring-jp.com> をご覧ください。



編集後記

学会法人化6年を経過し、「けあ・こみニュース」も第10号となりました。当初は、全国大会、学会関連研修会、関連団体の活動を主に掲載し、最近では、特集として就労や地域で障害当事者が中心となって開催している活動や体験を取り上げています。皆様からいただいたその内容は、当事者や支援者としての思いや体験しているからこそその言葉にあふれており、また、感染状況にありながらも工夫し活動を続けている事に、刺激を受け勇気づけられています。これからも地域での活動や皆様からのご意見を反映する広報誌となるよう広報委員も気持ちを新たに・・・と思います。皆様からの情報をお待ちしております。

ご協力のほどよろしくお願いいたします。

-中島 鈴美-